

平成31年度神戸大学前期日程 入試問題『出題の意図・評価ポイント』

国語

※1 この『出題の意図・評価ポイント』についての質問、照会には一切回答しません。

※2 配点（素点）は入試問題に記載してあります。

なお、本学入学者選抜のための教科・科目ごとの配点については、平成31年度神戸大学学生募集要項を参照してください。

【出題の意図・評価ポイント】

一（現代文）

問一

標準的な漢字の知識を試す問題。とはいえ、いずれの漢字も文脈を正確に理解しないと書けない語彙であり、その意味で間接的に読解力を試す問題でもある。

問二・問三・問四

いずれも標準的な読解力を試す問題。たんに傍線部の前後の二、三行だけを手がかりにするのではなく、傍線部の意味を大きな文脈のなかで把握する大局的な読解が求められる。そのうえで、解答に盛り込むべき内容を制限字数内でいかに筋道の通った文章でまとめることができるかを試す問題である。問二および問三では、筆者の述べる複雑な論理を簡潔かつ正確に説明する表現力も要される。問四は、文章の後半の論旨を踏まえて解答する必要がある、大局的な読解を問う問題でもある。

問五

基本的には問二・問三・問四と同じ趣旨の問題であるが、本文全体の論旨を踏まえることが必要となる点で、より高度な読解力を試す問題となっている。四〇〇〇字強の長文について、個々の論点を的確に押さえながら全体を貫く論理の筋道を正確に読み取るという論理的思考力がここでは何よりも求められる。しかも、解答の制限字数も一六〇字以内とやや長いため、必要な論点をただ列挙するだけでは十分でなく、それを論理的に構成し論述する文章構成力も必要となる。読解と論述の両面に関して、日常的なトレーニングを十分に積んでいるかが問われる問題である。

二（古文）

問一 古文をまんべんなく学習できているかを問うために、文学史の基本的な問題を出題した。

問二 基本的な古典文法の知識を有しているかを問うた。

問三 逐語訳にとどまらず、文脈を踏まえて適切に現代語訳を行えているか点検した。

①「限り」の内容を理解できているかを問うた。

②基礎的な語彙である「さとり」「やむごとなし」の内容を、この文脈の中で把握できているかを問うた。

③「働く」の指し示す内容と、このあとにどのような文言が省略されているかを理解できているかを問うた。

④「然」の内容を理解できているかと、「なめり」を適切に訳せるかを問うた。

問四 惟規の発言がどのようなもので、それに対して僧がなぜ「いと狂ほし」と感じたのかを把握できているか、点検した。

問五 作者の論理を捉えられているかを点検するとともに、やや短い制限字数の中で簡潔にまとめられる文章構成力を有しているかを問うた。

三（漢文）

問一 基本的な助字の読み方を理解しているかを問うた。

問二

（ア）反語「豈～邪」の用法および「欲」の内容（誰が誰に何を「欲」か）を組み合わせ理解し正しく日本語に訳せるかを問うた。

（イ）「孰」および「若」の用法を理解して正しく日本語に訳せるかを問うた。

問三 「独」の意味および文脈から何と比較して「独」と述べているかを補足して正しく日本語に訳せるかを問うた。

問四 文章全体の意味を理解して六〇字以内で「事」の内容を的確にまとめられるかを問うた。とくに呂蒙が以前の軍事的能力しかない状態から、勉学を通じ学識をも身につけたという変化の状況が理解できているかという点を評価のポイントとした。